



小さな窓

平成30年6月1日(金)
三鷹の森学園
三鷹市立高山小学校
校長 柳瀬 泰

学校ホームページのギャラリーを随時、更新しています。どうぞご覧ください。

深い学び

校長 柳瀬 泰

私が担任をしていた頃のある日の国語の授業の話です。

「じゃ」「じゅ」「じょ」という音がまじった言葉をみんなで探し、ローマ字に表す学習をしていると、「じょうろ」と言う言葉が出てきました。まずは、ノートにそれぞれが「jyouro」と書きました。

すると、ある子が「これって、ひらがなですか？それともカタカナですか？」と言いました。確かに「じょうろ」のようでもあり「ジョーロ」のようでもあります。ひらがな表記ならば「じょうろ」は日本の物で、カタカナ表記なら「ジョーロ」は海外の物ではないか、という話にも発展しました。さっと国語辞典に手を伸ばして調べ始めた子が、「辞書には『じょうろ』ってひらがなで書いてあるから日本語、つまり、日本の物だと思います」と発言し、私も子供たちもすんなり納得しました。

授業が終わって休み時間のことです。淳美さんという女の子が、別の辞書をもってやってきました。

「先生、ここには『^{じょうろ}如雨露』って書いてあるけど、本当に日本語かな？」

と質問してきました。私は「さあ、どうだろう？」ときちんと取り合うことなく、その場は終わりました。

すると翌日、また、淳美さんがやってきて言いました。

「先生、ポルトガルってどこにあるか知っている？」

「え？ポルトガル？どこだろう？でも、なんでそんなこと聞くの？」

と問い返すと、私の手の上に一枚の紙を置きました。そこには、鉛筆でヨーロッパの地図が書かれて、「ポルトガル」の位置が示されていました。そして、その地図の下に、「じょうろ=ポルトガル語」と書かれていました。

「よく調べたね」私は心から彼女の学びを誉めました。4年生の淳美さんは、国語の学習で出会った一つの言葉を追求し、日本から遙か遠い見知らぬ国へと導かれたのでした。

「深い学び」といいますが、授業で触れた知識をきっかけに、子供が自ら探究的・発展的に学ぶ姿に出会える学校・学習でありたいと考えます。

6月の行事予定

1日(金) 内科検診(1年、3年)	15日(金) セーフティ教室 5時間授業
4日(月) 全校朝会 避難訓練(朝会時)	18日(月) 全校朝会 水泳指導開始(~9/14)
5日(火) 体力テスト 整形外科検診	20日(水) 委員会(5年~)
6日(水) 体育朝会(~3年) クラブ(4年~)	21日(木) 7時間授業(4,5年)
7日(木) オリパラ講演会 7時間授業(4年~)	25日(月) 全校朝会 自然教室前日健診(6年)
11日(月) 全校朝会(4年~) 午前授業	26日(火) ~29日(金) 自然教室(6年)
12日(火) 整形外科検診	27日(水) 4時間授業
13日(水) 体育朝会 4時間授業	28日(木) 7時間授業(4年~)



6月のめあて

生活 学校のきまりを守って生活をしよう
安全 室内遊びについて考えよう
保健 歯をみがいて口の中を大切にしよう



オリンピック・パラリンピック教育

「左手のピアニスト」から学ぶ

学校便り担当 柳下 将

6月7日(木)に、岡田侑子さんをお招きしてオリンピック・パラリンピック教育を行います。

岡田さんは、「左手のピアニスト」と呼ばれています。音楽療法士を志していた大学生の時に「右手局所性ジストニア」と診断され、右手が思うように動かなくなります。その後、左手にも局所性ジストニアを発症し、一度は音楽の道から離れました。しかし、独自の訓練方法を編み出して、左手リハビリに取り組み始めました。そして約2年間の休養・リハビリ期間を経て、ピアノリサイタルを開催し、メディアにも採り上げられるようになりました。

オリンピック・パラリンピックというと、トップアスリートを思い浮かべる方も多いと思いますが、オリンピック・パラリンピック教育には、障害者理解ということも含まれます。岡田さんのように左手だけでも人々を感動させる演奏をする人もいます。

子供たちには、岡田さんの生演奏を聴き、障害者理解を深めていくことを期待しています。

たてわり班活動

6年生の活躍に期待！！

特別活動部 遠藤 みゆき

高山小学校では、異学年交流を通して、互いによりよい人間関係を築こうとする態度を育むために、たてわり班活動を行っています。1年生から6年生、わか竹学級の子どもたちが20班に分かれ、基本的に、朝の15分を使って活動しています。

その活動の内容を考えていくのが、6年生の役割です。グループのリーダーとして、班の下級生のことを思いやる場面が多く見られます。どんなゲームをしたらみんなが楽しめるか、他学年と交流するために、「こんなグループ分けにしよう！」と計画して準備するのが大変な6年生ですが、どの子も主体的に考え、意欲的に頑張っている姿が素敵です。

そんな素敵な6年生をみんなで応援し、たてわり班の活動を有意義で、笑顔いっぱいに過ごせる楽しい時間となるようにしていきます。



外国語活動 新学習指導要領の先行実施

英語主任 亀山 宏美

2020年度から完全実施となる新学習指導要領で、外国語教育は大きな改革がなされます。主な改訂のポイントは、中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動が導入されること、高学年から「読むこと」「書くこと」を加え、「外国語科」として教科化されることです。それに伴い、本校では2018年度より英語専科を配置し、新学習指導要領に対応した外国語教育の充実をすすめていきます。

①授業時数とALTの配置について

低学年は15時間の外国語活動を行っています。英語専科は第3学年～第6学年を受け持ちます。ALTは、引き続きハイディ先生です。また、小中一貫教育の取り組みとして、第三中学校から英語専科の坪内先生が週1時間6年生の授業に入ってください。

低学年・・・年間15時間を担任が行う ALTが入る時間は10時間

中学年・・・年間35時間を英語専科が行う ALTが入る時間は13時間

高学年・・・年間70時間を英語専科が行う ALTが入る時間は30時間

②全校で取り組む、外国語による朝学習「ことばの時間」について

金曜の朝は、外国語を中心とした朝学習を15分間、全校で行います。低学年は、歌って踊ったり、ジェスチャーを使ったりしながら会話文に親しみます。中学年では、主に語彙の定着を目指します。高学年では、大文字や小文字を正しく書けるように繰り返し練習していきます。

小学校における外国語教育の大きな目標は、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することです。「すらすら話せる」「英語がペラペラになる」ことを目的にするのではなく、楽しみながら英語表現に慣れ親しませ、それを使って友達とのやりとりをたくさん経験させていきたいと考えています。「失敗しても大丈夫！伝えようという気持ちが大切！」ということ、授業を通して伝えていきます。